

組みひものリストバンド

尾鷲中学校 生徒製作
ふるさと納税者に配布

尾鷲中学校(高田秀哉校長、2099人)の全校生徒が14日、ふるさと納税者に贈る組みひも状のリストバンド作りに取り組んだ。

市はふるさと納税の協力者に感謝の意を示すため、昨年度の協力者のうち700人をおわせ港まつりに招待し、花火の席を用意したり尾鷲節パレードへの参加、特産品のプレゼント、リストバンドの配布などを企画。ふるさと納税で中学生も



尾鷲市職員の説明を受け、組みひも状のリストバンド作りに挑戦する生徒たち(尾鷲中学校で)

今日作ってもらうバンドの叶(かなう)結びは願いがかなうとされている。参加者の成功を願い、地域に愛着を感じてもらい、末永く尾鷲とのつながりが続くよう一生懸命作ってほしい」と呼びかけた。

同課の濱口久範さんはふるさと納税の魅力について①返礼品がもらえる②税金が控除される③寄付金の使い道を指定できるーなどと説明し、2023年度で約4万件、5億3千万円の納税額があったことをクイズ形式で紹介。生徒たちが使うパソコンや学校給食センター整備、教室の発光ダイオード(LED)ライトにも使われていることや寄付金の3割は特産品生産事業者の売り上げとなることを明かし、「ふるさと納税は市のお金が増え、地域活性化にもつながる。今日は寄付をしてくれた人に感謝の気持ち

を伝えるために頑張っている」と求めた。リストバンドは被災時やキャンプなどで使用する丈夫なナイロン製のひも(パラコード)2本を結び、先端にバックルを付ける。色は市のふるさと納税のイメージカラーである赤と水色。生徒たちは市職員の説明を受け、結び方に悪戦苦闘しながら真剣な表情で取り組み、カラフルなリストバンドに仕上げた。

2年2組の山城佑汰琉さん(13)は「結うのは難しく、とても時間がかかった。努力と感謝の気持ちを込めて、頑張って作ったので、プレゼントした人に喜んでもらえたら」と笑顔。

西村調整監は「今回の企画は中学生に地域の現状や地域資源の発見、活用について知見を深めた上で、実際に地域が抱える課題を与え、解決策を考えるプログラムも兼ねている。『自分が地域のために何かしたい』『自分たちでもできることがある』と感じるきつ

かけとなり、いろいろな組織や関係者を巻き込み地域をつくる人材育成につなげたい。地域の現状を知り愛着や誇りを醸成すること、いったん地域を離れたとしても、将来また戻ったり、市外から応援してもらえたら」と話していた。

この日は市の甘夏ミカンの現状と歴史についての講話もあった。天満浦地区の甘夏畑再生に取り組みむ地域おこし協力隊の山下浩辰さんは「尾鷲甘夏は開拓構想から今年で70年のソウルフード。すっきりとした甘みと苦みが特徴でビタミンC、B1、クエン酸もたくさん取れるので疲れ知らず。苦みを感じるかもしれないが、大人になるとこの苦みがおいしくなる」とし、「全国的に栽培面積、収穫量が減少しており貴重となっている中、尾鷲は今、甘夏に力を入れて栽培しているので、皆さんにもたくさん食べて良さを知ってほしい」と呼びかけた。

29年目ヒラメ稚魚放流

尾鷲市 市内 9地区に3万4200匹

尾鷲市は本年度も沿岸漁業資源増殖を目的に、市内9地区に約3万4200匹のヒラメ稚魚を放流する。

稚魚は2月下旬に志摩市の県栽培漁業センターで人工ふ化。古江町の県尾鷲栽培漁業センター沖の小割で1カ月ほど中間育成し、体長約8センチの放流サイズに成長した。

14日朝は稚魚を同センターのいけすから三木浦地区の漁船に配

